

## 天敵カルテシステム

- システムの紹介と増殖情報ベースとの関連 -

木浦卓治・渡邊朋也（農研セ）・三浦一芸・太田 泉（中国農試）

天敵カルテシステムは天敵カルテをデータベース化しインターネットで自由に利用できるようにしようというシステムであり、天敵カルテ企画幹事会で検討され、中国農業試験場と農業研究センターが中心となってシステムの開発を行っている。現在のシステムが提供する機能は、(1)カルテ記入者登録、(2)カルテの記入および登録、(3)カルテの審査、(4)カルテの提供である。天敵カルテシステムは日本語を表示・入力できるほとんどの Web ブラウザから利用でき、データの処理は Web サーバ側で実行される。

増殖情報ベースは農林水産省の産官学共同プロジェクトであり、情報技術を利用して農業生産者や消費者の意思決定を支援するための研究を行っている。増殖というキーワードは、(1)情報が増える、(2)情報が関連して使い方が増える、(3)情報利用の事例が増えると言う意味から使われており、成長を続けることをあらわしている。増殖情報では、(1)事例を効率的に利用する、(2)各種モデルを効率的に利用する、(3)データを解析して隠れた関係を発見する、(4)これらをインターネットで効率的に利用するための研究が行われている。天敵カルテはそれ自身が増殖情報ベースである。増殖情報ベースの問題点の一つに「自由に利用できる情報が少ないこと」があり、天敵カルテシステムは情報源としても位置づけられている。このため、天敵カルテシステムでは天敵カルテやシステムを自由利用するための仕組みも検討している。

天敵カルテシステムは、(1)市販のソフトウェアは利用しない、(2)カルテデータは入力者から無償で利用ライセンスが提供される、(3)システムのソースがオープンである、等の理由から発展は誰でも行えるようになっている。増殖情報ベースとしては、天敵カルテ概念検索を含むハイブリッド型検索システムの提供、メーリングリスト天敵 IPM や天敵画像データベース(開発中)等の周辺情報とのリンク等を予定している。

天敵カルテシステムは完成したシステムではない。天敵カルテからすれば単なる入れ物である。しかしながら、我々は天敵利用を推進するためには天敵カルテシステムのようなシステムが必要だと考えている。また、システムがうまく機能するためには、天敵を利用している人たちからの情報提供が鍵となる。増殖情報ベースの考え方に共感された方の天敵カルテへの参加をお願いしたい。

天敵カルテシステムのデモは次のサイトで行っている。

<http://zoushoku.narc.affrc.go.jp/%7ekiura/tenteki/>